

町 長 所 信 表 明

平成27年葛巻町議会 9 月定例会議が開会されるに当たり、町長再任の挨拶と今後の町政運営について、所信の一端を申し上げます。

葛巻町が60周年を迎え、この記念すべき年に、多くの町民の皆様からの暖かいご支援を賜り、3期目の町政を担わせて頂くこととなり、初心に帰り、常に謙虚な姿勢で、全力で取り組ませて頂く所存であります。

平成23年の東日本大震災以降、社会情勢が混迷した状況にあるなか、国は人口減少対策、東京一極集中の是正、地域経済の活性化を図るため「地方創生」を掲げたところであり、私が3期目の目標といたしました「ひと・地域・資源を活かし、一步前進のまちづくり」に対しまして、皆様から寄せられた信頼と期待に応える責任の重大さを痛感しているところであります。

また、これまでの2期8年の取り組みにおいて、さまざまな分野でネットワークが強まるとともに、山村のモデルとなるまちづくりに向けて、今後の方向性が少しずつではありますが、芽が出始め、可能性や手応えを感じており、時代を先取りし、さらにそのスピードを加速させ、次の世代へ繋ぐために、今後の4年間も諸課題の解決に全力で手を抜くことなく取り組んで参ります。

この2期8年の間、議員各位並びに町民の皆様のご理解とご協力により、各分野で掲げた公約のほとんどを達成し、成果として出せたことに対しまして感謝を申し上げます。

3期目をむかえ、これまでの「安全・安心のまちづくり」は、町民の皆さんが日々の生活で感じている様々な「不安」を一つ一つ解消していくことが本当の意味での豊かさや幸せに繋がっていくのではないかと考えており、これらの「不安」を一つでも多く解消し町民の皆さんが「安心して暮らせるまちづくり」を構築することを最優先に取り組んで参りました。

一方で町の人口は、昭和36年の約1万6千人をピークに減少し続けており、25年後の平成52年には、現在の約半数の3,300人まで減少するとの試算も出ており、これまで以上に人口減少問題の解決に向けた取り組みが重要と考えております。

人口減少問題を克服し、町に住む誰もが「安心して」「夢と誇り」を持った生活をこの先も続けることができる「葛巻町」にしていくため、私は「山村の持つ資源と機能を活用した取り組み」に全力を尽くす決意であります。

しかしながら、人口減少問題の克服には、町民一人ひとりが取り組みを理解し、将来に向けた夢を持って、「町」「地域」「個人」が協力し合い、新たな取り組みへ挑戦していくことが最も重要なことであると思っておりますので、皆様のお力添えをお願いいたします。

以下、3期目にあたり「ひと・地域・資源を活かし」、最重要課題である人口減少問題を克服しながら、「一步前進のまちづくり」を進めるための今後の主な施策について申し上げます。

まず、「安心して暮らせる環境の確立」であります。

一人でも多くの皆様から、この町に「住んでいて良かった」「住み続けたい」「住んでみたい」と思って頂くためには、安全で安心して暮らせる生活環境は欠かせないものと思っております。

特にも、安心を支える生活基盤や安心できる医療・介護・福祉体制の充実は、高齢化社会が進む現代において、重要度が増してきております。

誰もが、安心して暮らすことができるよう、葛巻病院、養護老人ホームの早期完成に努めて参るほか、江刈簡易水道統合整備、町道茶屋場田子線の整備促進、若者世代向けの住環境の整備や高齢者にやさしい生活環境の構築などの施策を進めて参ります。

次に、「次代を担う人材の育成と確保」であります。

まちづくりは、人づくりであり、我が町の未来を託す子どもたちが健やかに育つことができる環境の構築が、若い世代の移住・定住

を促し、また、まちづくりに熱意を持った人たちの行動が町を活性化するものであります。

このことから、子育て支援と教育・人づくりの環境をさらに充実させるとともに、移住・定住の推進と情報発信を強化することで、町の人口増加に繋げていきたいと考えております。

その主な施策としましては、江刈小学校校舎改築など、子どもを産み育てやすい環境の充実、保育園から高校までを対象とした連携教育の推進、移住・定住・山村留学制度の推進、さらにグリーン・ツーリズム、スポーツ・ツーリズムなど町へ足を運んでもらうための施策の推進であります。

最後に、「地域産業の新たな展開と発展」であります。

基幹産業の酪農・林業においては、年々厳しさが増すなか、足腰の強い経営体の確立や担い手の育成、さらには、一次産品の高付加価値化を図るため6次産業化の推進など内発型の産業振興の取り組みが求められています。

また、産業全般では、職種の多様化による雇用ニーズのアンマッチ、後継者・担い手不足など、解消しなければならない課題が山積しております。

特にも、人口流出に歯止めをかけ、移住・定住者を増やすためには、雇用の場の確保は重要課題の一つであります。

これらの課題を解決するためには、地域資源の高付加価値化と雇用創出、さらには、新たな地域産業の創出に向けた起業支援、さらには、新葛巻型酪農構想の着実な推進を始め、農・商・工連携による産業振興、包括的な「くずまきブランド」の確立、資源循環型の林業振興などの取り組みを強化して参ります。

以上、これからのまちづくりの基本的な考え方を国が進める地方創生の「まち・ひと・しごと」の3分野の観点から申し上げましたが、今後のまちづくりにあたっては、それぞれの分野をバランスよく取り組むことが大事であると思っております。

現在、町政のみならず国・県をとりまく環境は大変厳しい状況にあり、特にも人口減少問題に端を発した「地方創生」は、全国の自治体が一斉に取り組みを始めることから、地域間における住民確保競争が今後激化していくものと思われます。

このような情勢にあって、将来とも町として自立していくためには、各分野を包括的な視点で捉え、町が持つ資源を最大限に活かし、葛巻だからできる、葛巻にしかできない取り組みを大切にし、推進することで、町の魅力向上と独創性を高め、人口減少問題を克服して行きたいと考えております。

「ひと・地域・資源を活かし、一步前進のまちづくり」は、町民のみなさんがこの町に「夢」と「誇り」を持って「住み続ける」ための取り組みであります。

そして、次の時代を担う子どもたちのための取り組みであり、葛巻町が「山村のモデル」として光り輝き続けることができるための取り組みです。

そのためには、行政も町民も同じ方向を目指し、一体感を持って協力し合うことが何より大事であります。

私は、これまでと同様、いかなる難題にも果敢に挑戦し、誠心誠意全力で取り組んで参る覚悟であり、皆様と一層の信頼関係を築きながら、共に歩み続けたいと考えております。

議員各位並びに町民の皆様には、一層のご指導、ご協力を賜りますよう切にお願い申し上げまして、再任の挨拶と所信表明といたします。

平成27年 9 月 4 日

葛巻町長 鈴木重男